

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	バスター 90TT
会社	日本曹達株式会社
住所	〒100-8165 東京都千代田区大手町 2-2-1
担当部門	化学品事業部環境化学品一部環境化学品課
電話番号	03-3245-6148
FAX 番号	03-3245-6248
緊急連絡先情報	化学品事業部環境化学品一部環境化学品課
電話番号	03-3245-6148
SDS 作成日	2004年10月04日
SDS 改訂日	2015年03月24日(03版)

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

火薬類	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	タイプ G
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	区分 2
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性	分類できない
急性毒性：経口	区分 4
急性毒性：経皮	区分外
急性毒性：吸入（ガス）	分類対象外
急性毒性：吸入（蒸気）	分類できない
急性毒性：吸入（粉塵・ミスト）	区分外
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼	区分 2A

刺激性

呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	分類できない
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生毒性(急性)	区分 1
水生毒性(慢性)	区分 1

【ラベル要素】

絵表示 (GHS-JP)



注意喚起語 危険

危険有害性情報(物理化学的危険性)

火災助長のおそれ；酸化性物質

危険有害性情報(健康有害性)

飲み込むと有害

強い眼刺激

危険有害性情報(水生毒性)

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

(安全対策)

- 1) 予防策については、「7. 取扱いおよび保管上の注意」、「8. 暴露防止措置及び保護措置」を参照。
- 2) 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
- 3) 衣類及び他の可燃物から遠ざけること。
- 4) 可燃物と混合を回避するために予防策を取ること。
- 5) 取り扱い後は、手及び眼をよく洗うこと。
- 6) この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 7) 環境への放出を避けること。
- 8) 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

(応急措置)

- 1) 応急処置については、「4. 応急措置」、「5. 火災時の処置」を参照。
- 2) 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 3) 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当てを受けること。

- 4) 火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。
- 5) 漏出物は回収すること。

(保管)

- 1) 保管については、「7. 取扱い及び保管上の注意」を参照。

(廃棄)

- 1) 廃棄については、「13. 廃棄上の注意」参照。
- 2) 内容物/容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質
化学名 トリクロロイソシアヌル酸

化学名	CAS 番号	濃度	化学式	官報公示整理番号	
				化審法番号	安衛法番号
トリクロロイソシアヌル酸	87-90-1	>= 99%	C 3 N 3 O 3 C 1 3 (構造式は末尾に記載)	5-1044(優先評価化学物質)	なし(公表化学物質扱い)

《滑沢剤》

CAS No.	有り
含有量	1%未満
化審法	既存化学物質
安衛法	既存化学物質

4. 応急措置

飲み込んだ場合

- 口をすすぐ。気分が悪い時は、医師に連絡する。
- 無理に吐かせてはならない。

吸入した場合

- 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- 気分が悪い時は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合

- 多量の水と石鹸で洗う。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受ける。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯する。

眼に入った場合

- 水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受ける。

5. 火災時の措置

適する消火剤

大量の水

不適な消火剤

粉末消火剤

火災時の特定危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特定の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。

消火を行うものの保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

消火作業の際は、保護衣を着用し、眼、鼻、口を覆う保護具(ホースマスク等)を着用するのが望ましい。

6. 漏出時の措置

漏出時の措置

- 1) 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 2) 関係者以外の立入りを禁止する。
- 3) 適切な防護衣を着けていない時は破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- 4) 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
- 5) 作業に際しては適切な保護具を着用し、飛散しない方法で回収する。保護具は「8. 暴露防止措置」を参照のこと。
- 6) 環境中に放出してはならない。
- 7) 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

除去方法

漏洩物の除去や廃棄物処理は専門家の指示による。漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花、火炎の禁止)。可燃物(木、紙、油等)は漏洩物から隔離する。

7. 取扱い及び保管上の注意

避けるべき条件

高温、直射日光、湿気

取扱い

- 1) 取扱う場合は、保護具着用のこと。保護具については、「8. 暴露防止措置」参照の事。
- 2) 局所排気装置等の換気装置のある場所で取扱う。
- 3) 安全注意事項を読み理解するまで取り扱わないこと。

- 4) 吸入、飲み込みをしないこと。眼に入れないこと。皮膚との接触を避けること。
- 5) 可燃物や酸化されやすい物質との混触を避けること。
- 6) 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- 7) 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。
- 8) 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをすること。

保管

- 1) 直射日光を避け、換気のよい冷暗所で保管する。
- 2) 保管中、容器は密閉する。
- 3) 強酸化性物質、強還元性物質との混載、貯蔵は避ける。
- 4) 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

《トリクロロイソシアヌル酸 のデータ》

厚生労働省（管理濃度） 設定されていない

日本産業衛生学会（許容濃度） 設定されていない（2009年度）

設備対策

屋内使用の場合、装置を密閉化し、局所排気装置その他の設備対策を実施する。

取扱い場所の近くに、洗眼器・シャワーを設置する。

保護眼鏡

ゴーグル型

保護手袋

ゴム・塩ビ等の不浸透性手袋

呼吸用保護具

防塵マスク

保護衣

材質を特定しないが、長袖・長ズボン

9. 物理的及び化学的性質

形状 錠剤
色 白色
臭い 刺激臭

沸点

情報なし

pH

2.7～3.3

Log P_{o/w}

情報なし

溶解度

1g/100g (水 25℃)

35g/100g (アセトン 30℃)

その他の物理/化学的性質**分解温度**

約 225℃

引火点

引火せず

発火点

情報なし

その他の危険性情報**酸化性**

強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と反応する。アンモニア、アミン、酸化剤、還元剤、可燃性物質、強酸、強アルカリ、他の種類の塩素剤との接触に注意する。

10. 安定性及び反応性

安定性・反応性

乾燥状態においては安定であるが、水に溶解すれば次亜塩素酸を生じる。加熱すると分解する。

避けるべき物質

アンモニア、アミン、酸化剤、還元剤、可燃性物質、強酸、強アルカリ、他の種類の塩素剤
危険有害な分解生成物

塩素、塩化水素、一酸化炭素、三塩化窒素及び窒素酸化物などを発生する可能性がある。

11. 有害性情報

眼刺激性

区分 2A(強い眼刺激) (ウサギ)

急性経口毒性

LD50 (ラット) : 406mg/kg

急性経皮毒性

LD50 (ウサギ) : >2000mg/kg [*01]

急性吸入毒性

LC50 (ラット) : >12.5mg/L (4hr) [*01]

12. 環境影響情報

生分解性

難分解性 分解率 (BOD) : 0% [*02]

急性魚毒性

LC50（ヒメダカ）：1.5mg/L（48hr）

LC50（ニジマス）：0.08mg/L（96hr）〔*03〕

13. 廃棄上の注意

廃棄上の注意

- 1) 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投機することは避ける。
- 2) 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- 3) 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
- 4) 汚染容器及び包装は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

輸送上の注意

- 1) 荷役中の取扱いは、慎重丁寧に行い、手かぎの使用・転倒・落下・衝撃等により容器を傷め、内容物を飛散させてはならない。
- 2) 輸送中は、直射日光や雨水の浸透を防止するため、被覆すると共に、容器を動揺、摩擦、転倒、落下が起こらないように積載・輸送する。
- 3) 水、酸、アルカリ、他の塩素剤、油脂及び他の可燃物に触れさせない。
- 4) 強い衝撃を与えない。

国連分類(クラス)

5.1（酸化性物質）

容器等級

II

国連番号-品名

2468（トリクロロイソシアヌル酸（乾性のもの））

海洋汚染物質

該当

15. 適用法令

化審法	： 優先評価化学物質（法第2条第5項） （トリクロロイソシアヌル酸）
労働安全衛生法	： 通知対象物質 非該当 表示対象物質 非該当
毒物及び劇物取締法	： 非該当
消防法	： 非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTTR法）	： 非該当

16. その他の情報

記載内容の問合せ先

化学品事業部環境化学品一部環境化学品課 (TEL: 03-3245-6148 FAX: 03-3245-6248)

引用文献

14096 の化学商品、化学工業日報社

[*01] IUCLID(2000)

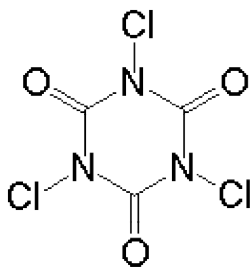
[*02] 既存点検データ

[*03] ECOTOX, 2008

記載内容は現時点で入手できた資料、情報データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。

中毒したときの緊急連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)
中毒110番 一般市民専用電話 (大阪) 072-727-2499 (情報料無料)
365日24時間対応
(つくば) 029-852-9999 (情報料無料)
365日9~21時対応
医療機関専用有料電話 (大阪) 072-726-9923 (1件2000円)
365日24時間対応
(つくば) 029-851-9999 (1件2000円)
365日9~21時対応
医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、
情報料1件につき2,000円を徴収します。



CAS 番号 : 87-90-1

化学名 : トリクロロイソシアヌル酸